

アジア理解講座の開催について
「アジアにおける臓器移植—その法と生命倫理」

概 要

日本では1997年に臓器移植法が成立しましたが、日本人の生命観に配慮して、脳死判定には欧米に比べて厳しい基準が設けられています。一方、他のアジア諸国では、臓器売買の横行や死刑囚からの移植が問題となったり、他国で移植を受けるケースも見られます。その背景には貧困の問題と同時に人々の死生観・倫理観の違いに基づく基準の違いがあります。本講演会では、アジア諸国の臓器移植の現状、法規制の状況とその背景を概観し、日本とアジアにおける臓器移植に関する法と生命倫理の問題を考えます。

■ 背 景

九州大学アジア総合政策センターでは市民に開かれた大学を目指してアジア理解講座を開催してきました。これまでに開催したテーマは、「ヒップホップ、アジア、グローバル文化：反戦の日本語ラップと若者」、「アジアのジェンダーと政治」、「アジアの市民社会と国家」等です。今回は、日本でも大きな社会的話題となっている臓器移植と生命倫理の問題を扱います。栗屋剛教授（岡山大学大学院）は国際生命倫理学会会員、国際臨床生命倫理協議会副会長、インド生命倫理学会永久会員、日本生命倫理学会理事、日本人権教育研究学会理事でもあり、脳死・臓器移植に関する倫理・法律・社会問題についての数多くの著作を執筆され、アジアにおける臓器売買や死刑囚からの臓器移植、アメリカにおける人体商品化などについての実態調査や立法状況等の調査を行っています。研究成果は朝日、読売、毎日などの国内紙のみならず、米国ワシントンポスト紙やロサンゼルスタイムズ紙にも紹介され、NHK「クローズアップ現代」、NHK・BS「ワールドニュース」、テレビ朝日「報道ステーション」などに出演されています。

■ 内 容

日本では1997年に臓器移植法が成立しましたが、臓器を1つの部分としてみる欧米の生命観に比べ、日本には独自の生命観があり、脳死判定は欧米に比べて厳しい基準が設けられています。しかし、日本の生命観はどこまで「アジア共通」のものといえるのでしょうか。他のアジア諸国では臓器移植はどのように行われているのでしょうか。臓器移植を巡る法律と生命倫理に関してアジアではどのような議論が行われているのでしょうか。身体に関する感覚や死生観は欧米よりもむしろ他のアジア諸国に近

い日本ですが、近隣諸国の臓器移植と生命倫理を巡る状況や課題については余り知られていません。他方で、基準のゆるい国へ渡航して移植を受ける日本人もいるとされます。そこで、これらの問題に詳しい栗屋教授からアジア諸国の実態と現状分析、法規制と生命倫理の問題についてお話しいたします。

■ 効 果

日本でも臓器提供や移植医療は個人の意志や医療技術の問題を越えて、死生観や身体の商品化をめぐる社会的な議論に発展しています。日本における臓器移植や生命倫理の課題を欧米や他のアジア諸国との比較において検討することで、日本の臓器移植の議論を深めると同時に、今後のアジア諸国との医療連携の方向性について示唆を得ます。

■ 今後の展開

2007年2月に「日中韓シンポジウム：新しい連携と地域アイデンティティの形成にむけて」において生命倫理の分科会及び臓器移植をテーマとして日中韓の医者・患者・識者を招いてテレカンファレンスを開催します。本講演会は、2月のシンポジウムに向けての問題提起と位置づけ、アジアを広域に見渡しての観点から臓器移植をめぐる課題について市民の理解を深めることを目的としています。

【お問い合わせ】

アジア総合政策センター

電話：092-642-4433

FAX：092-642-4435

Mail：asia@isc.kyushu-u.ac.jp

第3回アジア塾の開催について
「貧困と戦争と環境問題って関係ないと思ってた」

概 要

貧困と戦争と環境問題は一般的には別々に捉えられている問題ですが、実はエネルギーと軍需戦略を媒介として深く結びついており、私たちの生活の仕組みそのものが直接間接にこれらの問題に荷担しています。その仕組みを市民一人ひとりから変えるべく活動を開始したのが、未来バンクです。未来バンクの創設者である田中優氏のトークに対して国際経験の長いアジア総合政策センターの坪田邦夫教授がコメントをして議論を深めます。

■ 背 景

アジア総合政策センターではこれまでも企業人や国際協力専門家などの実務家を対象として、アジア塾を開催してきました。これまでに「変貌する中国ビジネス環境と経営戦略」及び「NGO、大学、自治体のコラボレーションー三位一体の国際協力」というテーマで開催し企業戦略や国際協力のノウハウを広く提供してきました。第3回のアジア塾では、自ら非営利組織を立ち上げた田中優氏の活動とそれを持続して行くための秘訣についてお話いただきます。

■ 内 容

環境・福祉・市民事業に融資を行う市民による非営利バンクである未来バンクの創設者である田中優氏を招き、貧困と戦争と環境問題が生み出される仕組みについてお話しを伺います。未来バンクは、そのアイディアに触発されてMr. Children の桜井和寿や音楽家の坂本龍一らがap bankを設立しており、新しい社会づくりの方法として注目されています。田中優氏のトークに対し、世銀や国連機関に長年勤務された坪田邦夫教授がマクロな視点からコメントを行い、聴衆との質疑応答もまじえて議論を深めます。

13:00 オープニング

13:15 田中優トークライブ

14:30 クロストーク 田中優 x 坪田邦夫

16:00 終了

■ 効 果

本件を通じてグローバル化するアジアと日本の結びつきの一断面が明らかになり、それに対応する非営利組織の活動運営のノウハウを学ぶことで、アジアに開かれた市民社会の形成に寄与します。本件の開催に当たり、4つのNPOの協力を得ているので、大学内外への広がりが期待されます。

■ 今後の展開

アジア総合政策センターでは国際協力やNGOに関する講座をこれまでも連続して開催してきており、市民社会と国家や企業との関係に関する議論を継続して行ってきています。今回のアジア塾も日本社会の足元からアジアとのつながりを考える九州大学のアジア重視戦略の一環として捉えられます。

【お問い合わせ】

アジア総合政策センター

電話：092-642-4433

FAX：092-642-4435

Mail：asia@isc.kyushu-u.ac.jp